

次期「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けた考え方・論点

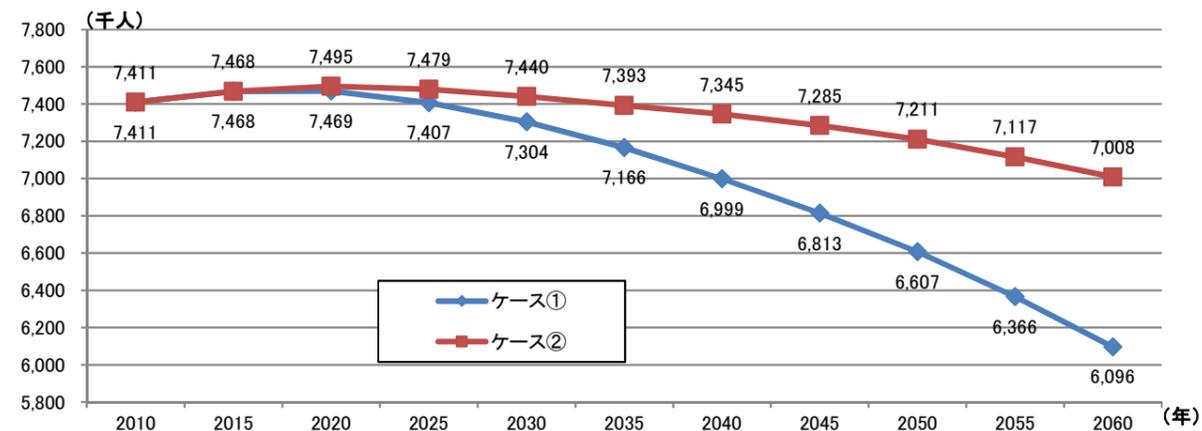
人口ビジョン

- 2015年国勢調査や、2018年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来人口推計などの新しいデータをもとに、改めてシミュレーションを行い、2060年までに人口700万人程度を確保するという展望の実現に向けたこれまでの動向と今後の見込みについて検証する。

※現行の人口ビジョンは、2010年国勢調査や2013年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来人口推計のデータをもとに、シミュレーションしている。
 ※国は、2060年に1億人程度の人口を維持する中長期展望について、「大きな変更を行わない」としている。

【参考：現行の「人口ビジョン」】

- ・ 本県の人口は、2020年頃をピークに減少に転じるものの、県民の結婚、出産、子育てに関する希望を叶え、人を継続的に呼び込むことにより、2060年時点でも700万人程度の人口の確保が可能。
- ・ 生産年齢人口（15～64歳人口）は減少傾向が続くものの、2060年には約380万人を維持。高齢人口（65歳以上人口）は2050年までは増加し、その後、緩やかに減少。



〔前提条件〕

出生率：以下の2つのケースを想定

ケース①：出生率が現状程度で推移する場合

⇒ 2020年：1.48、2030年～：1.45～1.47 ※社人研の中位推計

ケース②：出生率が上昇する場合

⇒ 2030年までに1.8、2040年に2.07に回復 ※国の長期ビジョンと同値

純移動率：本県の過去20年（1990→2010年）の平均移動率で推移すると想定

※純移動率：人口に占める転入転出超過数の割合

総合戦略

- 「東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核となる地域をめざす」とする、現行の「総合戦略」の進捗状況や、「総合戦略」策定後の社会経済の変化、国の総合戦略の改訂などを踏まえ、**現行の視点を拡充した、「新たな視点」により施策の充実を図る。**

＜基本的な考え方＞

東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核となる地域をめざす

＜現行「総合戦略」の4つの視点＞

1. 産業を強くし、働く場をつくる
2. 地域の魅力を磨き上げ、発信する
3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 活力ある地域をつくり、バランスある発展をめざす

現行の「人口ビジョン」・「総合戦略」の検証

現行の「総合戦略」の進捗状況や、「総合戦略」策定後の社会経済の変化、国の総合戦略の改訂などを踏まえた「新たな視点」の設定

現行の「基本目標」の枠組みを維持しながら、「新たな視点」により施策を充実

＜現行「総合戦略」の6つの基本目標と主な施策＞

1. **しごとづくり**
次世代産業の振興、中小・小規模企業の振興、創業支援、産業人材の育成、農林水産業の振興 等
2. **魅力づくり**
地域ブランドの構築と効果的な情報発信、MICEの誘致、スポーツ大会を活用した地域振興、文化芸術の創造・発信 等
3. **人の流れづくり**
企業誘致、大学等の活性化、移住・定住の促進、人の流れを支える社会基盤の整備・機能強化 等
4. **結婚・出産・子育て環境づくり**
若者の経済的安定、結婚・出産・子育ての支援、女性の活躍促進、ワーク・ライフ・バランスの推進 等
5. **暮らしの安全を支える環境づくり**
健康長寿の推進、医療・介護・福祉の充実、全員活躍社会づくり、多文化共生の推進 等
6. **活力ある地域づくり**
三河山間地域、三河湾の島々及び周辺地域の振興、持続可能で活力あるまちづくり 等

現行の「総合戦略」における、
基本的な考え方と施策展開において重視する視点

＜基本的な考え方＞

日本一の産業県として、東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す核としての役割を果たしていく。

視点1：産業を強くし、働く場をつくる

- ・愛知の強みであるモノづくり産業をベースに、自動車産業・航空宇宙産業・ロボット産業・健康長寿産業のさらなる高度化・集積
- ・女性が働きやすい環境づくり、都市型産業の育成・振興
- ・競争力のある農林水産業の確立
- ・産業人材やグローバルに活躍できる人材の育成・確保 など

視点2：地域の魅力を磨き上げ、発信する

- ・海や山などの自然、歴史文化、食文化、モノづくり文化、伝統文化、スポーツ、現代芸術などを生かした地域の活性化やブランドイメージの向上
- ・恵まれた交通条件や大都市圏にありながら自然豊かでゆとりある住環境があることなど、本県の魅力の積極的な発信
- ・産学官の連携強化や大学の活性化による若者層の呼び込み など

視点3：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・若い世代の経済的安定、若者へのきめ細かな就労支援
- ・年齢に応じた一貫したキャリア教育の実施による社会的自立の促進
- ・出会いの場の提供など結婚を希望する人をサポート
- ・妊娠・出産に関する意識啓発や健康教育の実施、周産期医療体制の充実
- ・地域社会全体で子育てを応援する気運の醸成、地域における子ども・子育て支援機能や、小児医療の充実 など

視点4：活力ある地域をつくり、バランスある発展をめざす

- ・三河山間地域や半島先端地域などの条件不利地域について、暮らしの安心を支える基盤の整備、観光振興による交流人口の拡大、移住・定住の促進
- ・都市機能の集約化等の推進、中心都市と周辺地域との連携強化による圏域一体となった発展、県境を越えた広域的なエリアでの連携強化
- ・高齢者、障害のある人などの就労や社会参加の促進、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療や介護サービスなどの提供体制の整備
- ・外国人集住地域における生活・教育環境問題や高齢化が進む大規模住宅団地などにおける医療・介護サービスの提供、地域コミュニティの希薄化に伴う防災面の対応など地域特有の課題解決への支援
- ・地方分権改革のさらなる推進や地方税財源の充実強化 など

次期「総合戦略」において、追加・強化する視点（案）

①新しい時代の流れを力にする

- ・「Society5.0」の実現に向けた技術の進展への対応
- ・スタートアップ支援を通じたイノベーションによる新たなビジネスの創出
- ・農林水産業におけるAI・IoT等の次世代技術導入 など

②人材を育て生かす

- ・国内外の大学と連携した次世代を担う高度人材の育成・確保
- ・女性・高齢者・障害者・外国人など、誰もが活躍できる場づくり
- ・不安定な雇用状況や長期の無業状況にある人が希望を持って働き、暮らすための支援 など

③新たな魅力の創造・発信

- ・愛・地球博記念公園に整備を進める「ジブリパーク」を生かした魅力の発信
- ・愛知県国際展示場「Aichi Sky Expo」を核とした国際交流の促進
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2026年のアジア競技大会など、スポーツを生かした地域の活性化 など

④誰もが活躍できる地域社会

- ・子育て世帯の経済的負担の軽減や働き方改革（長時間労働の是正等）の推進
- ・地域ごとの課題を明確化したオーダーメイド型の少子化対策の展開
- ・外国人材の受け入れ拡大に伴う多文化共生社会の実現
- ・「人生100年時代」を踏まえた、「多世代交流」の場、生涯現役で暮らせるまちづくり、全世代型の地域包括ケアの推進 など

⑤SDGs・持続的な発展

- ・人口流出の続く東三河地域や半島先端地域などにおける対応として、「関係人口」などの新たな視点での取組の推進
- ・経済・社会・環境が調和した社会をつくるための人材育成
- ・民間との協働や民間活力を生かした自立的な地域の運営 など